※令和４年度以降入学生用

学校番号	321

令和５年度　理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	啓林館「高等学校　地学基礎」						
副教材等	啓林館「Navi&トレーニング地学基礎 新訂版」						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

地学は、私たちの生活の場である自然環境に関する科目です。自然環境は、時代によって変化するため、自然環境を理解するには、自然界の歴史を辿ることも必要です。日本列島は地震・火山・集中豪雨など自然災害の非常に多い。これらの自然災害に対し、正しく対処するためには、それらの仕組みを理解することが大切です。単なる抽象的な知識として覚えるのではなく、自分の生活に関連させて学習することが大切です。地学で学習したことは、実生活に役立つはずです。

２　学習の到達目標

宇宙の誕生、銀河の分布、太陽の表面の現象、太陽のエネルギー源、太陽の進化について学習し、宇宙のしくみと成り立ちを理解する。太陽系の中の地球、地球の形と大きさ、地球内部の層構造を学習し、惑星としての地球の特徴を理解する。変動する地球について学習し、地球がプレートの運動や太陽の放射エネルギーによって変動してきたことを理解する。また、地球の環境と人間生活とのかかわりについて考察する。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	化学と物質についての実験などを通して，地学の特徴について理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察や記録などの基本的な技能を身に付けている。	地学について，問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究している。	地学の特徴に関する事物・現象について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	固体地球とその活動	・地球の概観 ・地球の内部構造 ・プレートテクトニクスと地球の活動 ・火山活動と火成岩の形成	a: 地球の形と大きさについて理解することができる。 b: 地球の形と大きさについて，観察や測定の結果などから考えることができる。 c: 地球の特徴に興味をもち，地球の形と大きさについて調べようとする。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など
	大気と海洋	・大気圏 ・水と気象 ・エネルギー収支 ・大気の大循環 ・海水の循環 ・冬から春の天気 ・夏から秋の天気	a: 大気圏の層構造やエネルギー収支、天気の変化について理解することができる。 b: 様々な観察の結果から、大気の層構造や海水の循環、天気の変化について考えることができる。 c: 身近な体験から大気や海洋の特徴に興味をもち，大気圏の層構造や海水の循環、天気の変化について調べようとする。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など
2	移り変わる地球	・宇宙の誕生 ・太陽系の誕生 ・先カンブリア時代 ・顕生代 ・地層からわかること ・地層の形成 ・地層の読み方	a: 宇宙の誕生や天体の様子、地層の形成など理解することができる。 b: 地球や地層の歴史について考えることができる。 c: 地球や地層の歴史に興味をもち，地球の誕生から生命の出現に至る地球の歴史などについて調べようとする。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など

※令和４年度以降入学生用

3	自然との共生	・地球環境と人類 ・地震災害・火山災害 ・気象災害 ・災害と社会 ・人間生活と地球環境の変化	a: 人類が自然から受けている多様な恩恵について理解することができる。 b: 地球環境の変化の時間・空間スケールや様々な自然災害について考えることができる。 c: 自然との共生に興味をもち，人類が自然から受けている多様な恩恵について調べようとする。	提出物 定期考査 観察など	提出物 定期考査 観察など	提出物 観察など

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度